

北海道湧別町の小野田才助作半鐘について その 2

木口 隆一

四 半鐘に刻された地名について

湧別はオホーツク海に面し、紋別と常呂の間、サロマ湖の西辺に接する屯田兵村である。湧別川に並行して南から北に直線の道路（現国道 242 号）が通り、その道路に沿って海まで長く村落が点在した。途中湧別川が屈曲する所に開盛橋が架けられ、その北側が湧別で、南側が遠軽である。

屯田兵は明治 36 年 3 月に解隊され、後備役に編入された。湧別兵村では中隊長の指揮下にあったが、湧別戸長役場の行政下に入った。行政上は「湧別村第十四部」であったが、一般には現役時代からの「四中隊一区」の呼称が使用され、現在に至るという。

明治 43 年 4 月、湧別村から「上湧別村」が独立分村した。この時、北兵村三区から南兵村一区まで七部の行政区域になった。

大正 4 年 6 月、「部」を廃し「区」に変更。湧別の字を省き、「南兵村」となる。

以上の経過によって、『拓魂八十年』に記載された大正元年の半鐘銘は「北見上湧別四中隊一区」であり、大正五年の現存する半鐘銘は「南兵村四中隊二区」となっていることがわかる。

「上湧別村 南兵村 四中隊貳區」は「一区」の北隣にあった。現在の地図でも一区とほぼ同じ区割跡が見て取れるが、どちらも今は住居がほとんど無いか疎らである。



第四中隊二区兵屋跡碑

第一区にも同様の碑がある

Google ストリートビュー